

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	オンデマンド遠隔授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 生活課題の調査と分析 (英文名) Survey and analysis of daily life issues				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 坂本 有芳 (ローマ字) Yuka SAKAMOTO				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	オンデマンド遠隔授業のため曜日・時 限は関係なし。		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	データ活用、社会調査、データの視覚化				
21. 授業概要	オンデマンドによる講義と課題による演習を行う。 持続可能な社会を目指したライフスタイルに対する理解を深め、生活の中から問題を見いだして課題を 設定し、それを解決する根拠となるデータを収集する方法や、収集したデータを適切に加工する方法を 学ぶとともに、データ活用の留意点について理解する。				☐
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	世の中に大量にあふれる生活情報の中から生活課題に関連した適切な情報を収集する方法を学ぶと ともに、ICTや統計資料等を活用してデータを整理できる力を身につける。				☐
23. 授業の到達目標 ／学修課題	各自の関心に応じて持続可能な社会づくりにかかわる家族、衣食住、消費の諸課題よりテーマを定め て統計データを検索し、時系列的变化や国際比較などを行い、数値による根拠に基づいて課題を整理 できるようになる。 また、データに応じた集計や分析、視覚化の方法を学び、収集したデータを適切に加工して、現代日本				☐

	の課題について各自の見解をレポートにまとめる。																					
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）																						
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）																						
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回：生活課題に関わる公的統計とその利用、持続可能な社会づくりにかかわるテーマ設定 第2回：表計算ソフトウェアを利用した統計資料の整理と加工 第3回：収集したデータを視覚化する方法、グラフ作成 第4回：様々な質的調査、量的調査の特徴とデータ活用の留意点 第5回：標本抽出、調査票の配布回収方法、調査項目の作成方法、変数の型と測定誤差 第6回：基本的な統計処理（基本統計量、単純集計、クロス集計、平均値の比較） 第7回：MS-Wordを活用したレポート作成法、PowerPointを活用したプレゼン資料作成法 第8回：生活課題レポートの作成（レポート提出）				☐																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 自分でアンケート調査を実施したり、統計分析ができるようになりたい場合には、社会調査法と統計分析の基礎について、書籍や動画を用いて学ぶとともに、繰り返し、自分の手を動かしてデータの加工をしてみてください。				☐																	
28. 成績評価の方法と基準	各授業で出した課題の内容と、最終レポートにて評価する。レポートは、講義で示されたデータ収集、集計、視覚化の方法をふまえたものとなっていること。				☐																	
29. 再試験の有無	なし				☐																	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：あり 香川大学4名・徳島大学0名・鳴門教育大学4名・高知大学4名・愛媛大学0名 ※制限ありの場合、10名以上で設定				☐																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの					☐																	
32. 教科書（購入の必要のある図書）	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td><td>書名</td><td colspan="3"></td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
教科書1	書名																					
	I S B N		著者名																			
	出版社		出版年																			
	金額		備考																			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html					☐
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他()		☐	
37. 教員相互参観授業公開日程						☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	坂本のオフィスアワー: 毎週水のお昼(12:10~13:00) まず、電子メール(ysakamoto@naruto-u.ac.jp)でアポイントメントを取ること。				☐
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)				☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	ysakamoto@naruto-u.ac.jp				☐
	連携大学 学生向け	ysakamoto@naruto-u.ac.jp				☐
40. 教員の実務経験について	シンクタンクでの調査研究実務の経験のある教員が、データを活用した考察力を身につけるための授業を行う。					☐
41. バリアフリー対応	例: 動画の音声を文字起こしたテキスト資料(PDF)あり					☐
42. その他／備考						☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	2学期	
3. 開講学部・学科等／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種別	オンデマンド型遠隔授業	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 家庭経営学 (英文名) Family Resource Management				
8. 副題 (日本語・英語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 森田美佐 (ローマ字) Morita Misa				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	学部2年次生		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	学部2年次生	
16. 曜日・時限	オンデマンド型遠隔授業 (曜日・時限は関係なし)		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学学生向け	なし		連携大学学生向け	なし
20. 授業のキーワード／英文キーワード (3つ以上5つ以下)	(1)生活経営、労働、家族的責任、ジェンダー平等 (2)Family resource management, Paid work, Family responsibility, Gender equality				
21. 授業概要	主に生活資源、ライフデザイン、生活リスクについて学び、生活者としての主体形成を目指す				☒

22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	家族・家庭生活と社会環境の相互作用の中で、より良く生きること、そして「生活者」になることを学ぶ	☒
23. 授業の到達目標／学修課題	1、受講生は、生活資源についての知識を身につける。 2、受講生は、ライフデザイン力を身につける。 3、受講生は、生活リスクへの対応力を身につける。	☒
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回, オリエンテーション 第2回, 今日の生活経営 第3回, 生活経営に求められる視点 第4回, 生活経営の研究 第5回, 生活をとるまく社会環境ー生活の組織と地域ー 第6回, 生活時間を考える 第7回, 家計を考える 第8回, ひと・ものとの関わりー生活のための「資源」ー 第9回, これからの生活経営ーどう働くか 第10回, これからの生活経営ー生活の社会化・家事労働 第11回, これからの生活経営ー生活と福祉 第12回, これからの生活経営ー持続可能な生活設計を考える 第13回, プレゼンテーション(A班) 第14回, プレゼンテーション(B班) 第15回, 最終レポート(提出)	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 ・全体を通してテキストを熟読:2時間×第1～11回＝22時間 ・第2～4回:文献(一般書、専門書を問わない)読解2時間×3回＝6時間 ・第3～12回:新聞、Web収集、専門書の文献読解:2時間×10回＝20時間 ・第13～15回:発表原稿作成・他の受講生へ意見交換:4時間×3回＝12時間	☐
28. 成績評価の方法と基準	学習意欲・授業参加度, 70 期末レポート,30 (計100)	☒
29. 再試験の有無	再試験は行わない	☒

30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし 香川大学_名・徳島大学_名・鳴門教育大学_名・高知大学_名・愛媛大学_名 ※制限ありの場合、10名以上で設定				☒																																																			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	授業毎に課される課題は、受講期間(開講時に通知)内に提出すること				☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">持続可能な社会をつくる生活経営学</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-254-60025-4</td> <td>著者名</td> <td>(一社)日本家政学会編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>朝倉書店</td> <td>出版年</td> <td>2020</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2700円＋税</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	持続可能な社会をつくる生活経営学			ISBN	978-4-254-60025-4	著者名	(一社)日本家政学会編	出版社	朝倉書店	出版年	2020	金額	2700円＋税	備考		☒																																		
教科書1	書名	持続可能な社会をつくる生活経営学																																																						
	ISBN	978-4-254-60025-4	著者名	(一社)日本家政学会編																																																				
	出版社	朝倉書店	出版年	2020																																																				
	金額	2700円＋税	備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																							
	ISBN		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	ISBN		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	ISBN		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	なし				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		☐																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー: 月曜1時間目 電子メール(kaseim@kochi-u.ac.jp)で要問合せ			☐																																																			

	連携大学学生向け	オフィスアワー: 特に設けない 電子メール(kaseim@kochi-u.ac.jp)で要問合せ	☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: kaseim@kochi-u.ac.jp	☐
	連携大学学生向け	Mail: kaseim@kochi-u.ac.jp	☐
40. 教員の 実務経験について	該当せず		☐
41. バリアフリー対応	特になし		☐
42. その他／備考	特になし		☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	対面授業／集中	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)テキスタイル基礎科学 (英文名) Clothing Science				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)福井 典代 (ローマ字)FUKUI Michiyo				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分		
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	対面授業は冬期集中講義期間		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	衣生活学(05251200)
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)被服材料 (2)被服整理 (3)被服製作 ／(1)Textiles and clothing materials (2)Laundering and finishing (3)Dressmaking				
21. 授業概要	繊維から糸, 糸から織物・編物にいたる各段階の組織・構造が, 衣服の外観, ドレープ性, フィット性, 取り扱いやすさなどの消費性能にどのように影響するかについて理解する。さらに洗濯に関する基礎的な知識を習得するとともに, 被服製作実習を行う。				☒
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	被服材料・被服整理に関する基礎的な知識を習得し, 被服の構成を理解することを目的とする。				☒
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 被服材料に関する基礎的な知識を習得する。2. 被服整理に関する基礎的な知識を習得する。3. 手縫いの基礎, ミシン縫いの基礎を習得する。				☐
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																						
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回 繊維の種類と特徴 第2回 糸の種類と特徴 第3回 織物・編物の種類と特徴 第4回 洗剤の種類と特徴 第5回 家庭洗濯(洗濯機の種類, 合理的な洗濯方法) 第6回 商業洗濯(ドライクリーニング, ウェットクリーニング, ランドリー) 第7回 被服製作実習(手縫いの基礎) 第8回 被服製作実習(型紙作成) 第9回 被服製作実習(布の地直し, 裁断) 第10回 被服製作実習(しるしつけ) 第11回 被服製作実習(ミシン縫いの基礎) 第12回 被服製作実習(縫い代の始末) 第13回 被服製作実習(部分縫い) 第14回 被服製作実習(本縫い) 第15回 期末試験				☒																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎時間の課題が終わらない場合は次の授業までに課題をこなすことが望ましい。詳細については授業内で説明します。事前学習として30時間, 事後学習として30時間以上の学習を行ってください。 【自学自習のためのアドバイス】 被服製作に必要な手縫いについて, 繰り返し練習してください。				☐																	
28. 成績評価の方法と基準	授業毎に課される課題(60%)及び期末試験(40%)の成績を総合的に評価する。 期末試験は, 授業時間数の3分の2以上出席した者につき行う。				☒																	
29. 再試験の有無	再試験は行わない。				☒																	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし				☒																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	授業毎に課される課題は, 受講期間(開講時に通知する)内に提出すること。				☒																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
教科書1	書名																					
	I S B N		著者名																			
	出版社		出版年																			
	金額		備考																			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー: 毎週月曜日5限目, またはfukui@naruto-u.ac.jpで問い合わせること。			☐	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)			☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	fukui@naruto-u.ac.jp			☐	
	連携大学 学生向け	fukui@naruto-u.ac.jp			☐	
40. 教員の実務経験について	該当せず				☐	
41. バリアフリー対応	非対応				☐	
42. その他／備考	なし				☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	前期・後半	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	オンデマンド遠隔授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 食物学特論 (英文名) Special Lecture on Food Science				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 西川 和孝 (ローマ字) NISHIKAWA Kazutaka				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1単位		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	オンデマンド遠隔授業のため、曜日・ 時限は関係なし。		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連 携 大 学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)栄養, (2)食品, (3)調理				
21. 授業概要	・現代の食生活の課題について理解する。 ・食事の役割, 食物に含まれる五大栄養素の基本的役割について理解し, 課題を提出する。 ・学校教育における食教育, 地域の食文化についても取り上げる。				☐
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	教育実践の基礎として, 食物学の授業展開に必要な知識を習得することを目的とする。				☒
23. 授業の到達目標 ／学修課題	①食物学の基礎知識について理解できるようになる, ②食生活の課題を認識し, 学校現場で授業 展開できる能力を身に付けるようになる, ③ICT機器に関心を持ち, 食教育に活用できるようにな ることが, 授業の到達目標である。				☒

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)																					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	授業計画 第1回：授業概説，現代の食生活の課題，食事の役割等 第2回：食品，栄養と食生活（炭水化物について） 第3回：食品，栄養と食生活（脂質について） 第4回：食品，栄養と食生活（たんぱく質について） 第5回：食品，栄養と食生活（ビタミンについて） 第6回：食品，栄養と食生活（無機質，水について） 第7回：学校教育における食教育，地域の食文化等 第8回：まとめ			☒																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 Moodleにある動画を視聴後，課題を提出すること。 第1回～第8回（事前学習として15時間、事後学習として15時間）			☐																	
28. 成績評価の方法と基準	試験は実施しない。課題の提出回数と内容で評価する。			☒																	
29. 再試験の有無	再試験は実施しない。			☒																	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：なし			☒																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	授業毎に課される課題は受講期間（開講時に通知する）内に提出すること。			☒																	
32. 教科書（購入の必要のある図書）	教科書を購入する必要はない。Moodleにある資料をダウンロードすること。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
教科書1	書名																				
	I S B N		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	First Stage 精選栄養学			☒
		ISBN	978-4407340310	著者名	五十嵐脩他	
		出版社	実教出版	出版年	2016	
		金額	1,760	備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	34. Web テキスト (URL・説明)	Moodleにある資料をダウンロードすること。 四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	☒		
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(nishikw@naruto-u.ac.jp)で問い合わせること。			☒	
	連携大学 学生向け	電子メール(nishikw@naruto-u.ac.jp)で問い合わせること。			☒	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: nishikw@naruto-u.ac.jp			☒	
	連携大学 学生向け	Mail: nishikw@naruto-u.ac.jp			☒	
40. 教員の実務経験について	該当せず				☐	
41. バリアフリー対応	非対応				☐	
42. その他／備考	なし				☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期 3クオーター	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向・対面授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 食物学総論 (英文名) General Food Science				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 土海 一美 (ローマ字) -				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1単位		13. 選必修区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	学部2年次		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部2年次	
16. 曜日・時限	双方向:後期・木曜日(16:30～18:00) 対面:未定		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	食物学Ⅰ、食物学Ⅱ	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	1182022-1
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)栄養素 (2)生活習慣病 (3)栄養価の評価 (1)nutrients (2)lifestyle-related disease (3)Evaluation of Nutritional Value				
21. 授業概要	栄養学は、小・中・高等学校家庭科で既習済みの内容である。しかし、受験教科ではないため、その内容を忘れていて人を多く見受ける。大学生活になり、生活習慣が変化し、あるいはコロナ禍での自炊生活で、自分の食生活を見直す機会を持った人も多いと思う。 栄養素の基本的知識や、偏った栄養摂取で発生する疾病を学習した上で、栄養バランス、食材の組合せの方法を知り、健康を維持していくために自分(家族)の食生活を見直し、改善方法を見つけ、実践(改善)していきましょう。 キーワード: 栄養素、機能、食生活、健康				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	現代の栄養の情報は氾濫し、混乱し、フェーク情報が入り混じっている状態ともいえる。そこで、五大栄養素の知識を理解し、身につけた上で、誤解している栄養学の知識に振り回されてはいないか、偏った食生活になっていないか、自らの食生活の見直しを行い、その問題点に気づき、解決方法を提示でき、				☑

	実践できるようになる。	
23. 授業の到達目標／学修課題	・五大栄養素の働きについて説明し、記述できる。 ・栄養バランスについて説明し、自らの食生活の改善点を見つけることができる。 ・食品の組合せと栄養バランスについて説明することができる。 ・偏った栄養摂取による疾病について説明し、その予防策を記述することができる。 ・自らの食生活の課題を見つけ、解決方法を探り、実践することができる。 ・改善点をわかりやすく記述することができる。	☒
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業計画】 1. オリエンテーション、食品の成分とは 2. 糖質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 「低糖質ダイエット」ははたして有効かなど 3. タンパク質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 4. 脂質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 5. ビタミン、ミネラルの働き 自分の食生活の課題に気づく 「野菜先食べ」は糖尿病の予防に有効かなど 6. 栄養バランスの見極め方 自分の食生活の課題に気づく 「無関心」から招く欠乏症など 7. 自らの食生活の課題解決方法を探る 8. まとめ	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	授業前30分、授業後60分を目安に学習してください。 第1回. 食品の成分は何かを調べ、紹介できるように準備する 第2-5回. 5大栄養素の機能を説明できるようにする。その上で、偏った栄養素の摂取で発生する疾病を調べ、発表できる 第6回. 栄養バランスの評価基準を使用し、自らの食生活の課題を見出し、整理する 第7-8回. 自らの食生活の課題を解決する方法を考え、実践し、記録に残す	☒
28. 成績評価の方法と基準	毎時間行う小テスト20%（毎時間の学習内容とそれを応用した内容から出題するため、授業外学習、毎回の積極的な参加が必要となる） 授業他提出を求めるレポート 30% レポート50%	☒
29. 再試験の有無	再試験なし	☒
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：なし	☐

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	毎回の出席代わりの小テストが成績にそのまま結び着きますので、欠席はしないように。 日々の生活そのものが、栄養学の内容となるので、食生活の情報に興味を持ってください。但し、その情報が正しい情報かどうかを確認しながら、生活することが大切です。				☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	必要な資料等は授業時に配布する。 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒																																		
教科書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	必要な資料等は授業時に配布する。 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒
参考書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職(中・高家庭免許状)		☒																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	未定			☐																																																			
	連携大学 学生向け	未定			☐																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	未定			☐																																																			
	連携大学 学生向け	未定			☐																																																			
40. 教員の実務経験について	該当せず				☐																																																			

41. バリアフリー対応	非対応	☐
42. その他／備考	なし	☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	対面	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 食物学Ⅱ (英文名) Food Study Ⅱ				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 土海 一美 (ローマ字) -				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	水曜日1時限目		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	食物学Ⅰ、調理学実習 Ⅰ、Ⅱ	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	1104273-1
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)栄養素 (2)食生活 (3)栄養価の評価 (1)Nutrients (2)Dietary Habits (3)Evaluation of Nutritional Value				
21. 授業概要	食物学Ⅱは栄養学の内容を含むため、栄養素の構造や代謝までの幅広い内容があるため少し難解な教科ともいえる。まず、栄養所要量や、栄養素の特徴や機能を理解し、どのように体の中で吸収・代謝されるかを学ぶ。 現代の食生活の多様化の中、学校教育でも食領域は重要視されている分野である。学校現場の中・高等学校の栄養教育の一端をになう家庭科教員の任務は重い。栄養指導も含めた幅広い栄養教育が行える教員になるための基礎力を養うことを目標とする。主に高等学校家庭科に準拠した内容を学習していく。				☒
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	食品の栄養成分の特徴とその機能を理解し、その栄養成分の消化・吸収が体内でどのように行われているかが理解できていること。また、栄養成分の摂取量を一日の食事内容から判定できるようになること。教育現場での栄養指導に対応できる知識を習得する。				☐
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1.各栄養素の特徴と生体内での働きについて具体的に説明することができる。 2.栄養素の消化と吸収について理解できる。 3.栄養素の機能やその組み合わせ、栄養価評価などについて適切な指導ができる。				☒

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 栄養素の機能について学習後、どのように栄養素が消化・吸収されているかについてもプレゼンテーションにより学習する。 2. 日本人の栄養摂取量や栄養所要量を現在の実態と比較することにより理解する。 3. 自分の食事の摂取エネルギー量について栄養計算により過不足を知り、その結果を食生活に還元することができる。 授業計画 (1) ガイダンス (2) タンパク質 (構造、機能、消化・吸収) (3) 脂質 (構造、機能、消化・吸収) (4) 糖質 (構造、機能、消化・吸収) (5) 食物繊維・ビタミン (構造、機能、消化・吸収) (6) ビタミンA (構造、機能、消化・吸収) (7) ビタミンD、E (構造、機能、消化・吸収) (8) ビタミンB1、C (構造、機能、消化・吸収) (9) ビタミンB群 (構造、機能、消化・吸収) (10) ミネラル (構造、機能、消化・吸収) (11) 栄養価計算、1日の栄養摂取量の目安 (12) エネルギー代謝Ⅰ (解糖系、TCAサイクル) (13) エネルギー代謝Ⅱ (電子伝達系) (14) 消化吸収 (15) まとめ	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 事前学習として90分、事後学習として90分程度を目安に学習してください。 第2週から10週 主要な栄養素の歴史が把握できるように自学自習する。食物学を復習して、栄養素の特徴や、食品が含む栄養素について理解する。 第11週 自分自身の食生活を国民健康栄養調査結果などを参考に振り返る。また栄養指導方法や栄養計算について、実際に調査を行う。 第12週から14週 各栄養素の生体内での働きについて理解するように、復習をしっかりと行っておく。 第15週 現場での栄養指導を考えて、自らの食事を見直すことができる。 第1回から第15回を通して、一般的包括的な内容を網羅する。	☒
28. 成績評価の方法と基準	プレゼン 3-4回程度 20%、テスト 80%	☒
29. 再試験の有無	再試験は行わない。	☒
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限: なし	☒
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	対面授業を行います。	☐

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 163 517 353" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="517 163 676 208">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 163 1414 208"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 208 676 253">I S B N</td> <td data-bbox="676 208 948 253"></td> <td data-bbox="948 208 1107 253">著者名</td> <td data-bbox="1107 208 1414 253"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 253 676 297">出版社</td> <td data-bbox="676 253 948 297"></td> <td data-bbox="948 253 1107 297">出版年</td> <td data-bbox="1107 253 1414 297"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 297 676 353">金額</td> <td data-bbox="676 297 948 353"></td> <td data-bbox="948 297 1107 353">備考</td> <td data-bbox="1107 297 1414 353"></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 409 517 600" rowspan="4">参考書1</td> <td data-bbox="517 409 676 454">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 409 1414 454"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 454 676 499">I S B N</td> <td data-bbox="676 454 948 499"></td> <td data-bbox="948 454 1107 499">著者名</td> <td data-bbox="1107 454 1414 499"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 499 676 544">出版社</td> <td data-bbox="676 499 948 544"></td> <td data-bbox="948 499 1107 544">出版年</td> <td data-bbox="1107 499 1414 544"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 544 676 600">金額</td> <td data-bbox="676 544 948 600"></td> <td data-bbox="948 544 1107 600">備考</td> <td data-bbox="1107 544 1414 600"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 600 517 790" rowspan="4">参考書2</td> <td data-bbox="517 600 676 645">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 600 1414 645"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 645 676 689">I S B N</td> <td data-bbox="676 645 948 689"></td> <td data-bbox="948 645 1107 689">著者名</td> <td data-bbox="1107 645 1414 689"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 689 676 734">出版社</td> <td data-bbox="676 689 948 734"></td> <td data-bbox="948 689 1107 734">出版年</td> <td data-bbox="1107 689 1414 734"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 734 676 790">金額</td> <td data-bbox="676 734 948 790"></td> <td data-bbox="948 734 1107 790">備考</td> <td data-bbox="1107 734 1414 790"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 790 517 992" rowspan="4">参考書3</td> <td data-bbox="517 790 676 835">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 790 1414 835"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 835 676 880">I S B N</td> <td data-bbox="676 835 948 880"></td> <td data-bbox="948 835 1107 880">著者名</td> <td data-bbox="1107 835 1414 880"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 880 676 925">出版社</td> <td data-bbox="676 880 948 925"></td> <td data-bbox="948 880 1107 925">出版年</td> <td data-bbox="1107 880 1414 925"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 925 676 992">金額</td> <td data-bbox="676 925 948 992"></td> <td data-bbox="948 925 1107 992">備考</td> <td data-bbox="1107 925 1414 992"></td> </tr> </table>				参考書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職（中高家庭免許状）	☐																																																				
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー: 毎週-曜-限目。または、電子メール(--[at]kagawa-u.ac.jp)で問い合わせること。			☐																																																			
	連携大学 学生向け	オフィスアワー: 特に設けない。電子メール(--[at]kagawa-u.ac.jp)で問い合わせること。			☐																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: --[at]kagawa-u.ac.jp			☐																																																			
	連携大学 学生向け	Mail: --[at]kagawa-u.ac.jp			☐																																																			
40. 教員の実務経験について	該当せず。				☐																																																			
41. バリアフリー対応	必要に応じて対応可。				☐																																																			
42. その他／備考	なし。				☐																																																			

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向・対面	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 住居学 (英文名) Housing and Living Design				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)なし (英文名)なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 池添 純子 (ローマ字) IKEZOE Junko				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分	必修	
14. 対象学生	学部2年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部2年次生	
16. 曜日・時限	双方向授業は後期後半・水曜日5限 (16:30-18:30)		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	住居学概論(製図を含 む。)	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)居住の権利 (2)住生活 (3)住空間 (4)住宅問題 (5)住教育 (1)Housing Rights (2)Dwelling Life (3)Dwelling Space (4)Housing Problem (5)Housing Education				
21. 授業概要	住まいを時間軸と空間軸から捉え、住まいの機能・役割や住文化の継承と発展の様相を学び、今日の 住生活および住環境を取り巻く状況や問題点を探究する。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	住居と住生活に関する基礎知識の修得および課題探究				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(授業の到達目標)住居と住生活に関する基礎知識の修得および課題探究を通して、①住居と住生活 に関する基礎知識を理解し、説明できる、②住生活および住環境問題を認識し、改善・解決方法を提案 できる、③健全な住意識や住要求を身につけることを到達目標とする。 (学習課題)①空間理論を実際の生活空間や場面に適用し、問題を検証、改善方法を提案する。②自 分の住む地域の住まい・まちの地方性、問題から調査テーマを立て、フィールド調査を行い、報告書を				☑

	まとめ、発表する。③住まい・まち・都市等、暮らし環境を題材にした絵本をリストアップし、住教育・学習の教材として用いた授業案を構想し、発表する。	
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回 住むということ 第2回 日本の住居と生活様式 第3回 日本の住まいの近代化 第4回 家族の変容と住まい 第5回 生活行為と住空間の構成 第6回 住まいの安全と健康 第7回 住まいのサステナビリティ 第8回 子育て家族の住まい 第9回 高齢期の住まい 第10回 災害と住まい 第11回 環境と住まい 第12回 地域性から住まいのかたちを問う 第13回 地域の伝統的な住まい・まちの調査（フィールドワーク） 第14回 地域の伝統的な住まい・まちの調査報告会 第15回 絵本を用いた授業の構想および住教育の課題（総括）	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	事前学習として2時間、事後学習として2時間以上学修を行ってください。 【自学自習のためのアドバイス】 授業で扱うテーマを参照し、参考文献等を用いて下調べをしておくこと。	☒
28. 成績評価の方法と基準	授業毎に課される課題（75%）および住まい・まちの調査・報告・発表（25%）により総合的に評価する。 ＊注：各課題は必ず期日を守って提出すること。	☒
29. 再試験の有無	なし	☒
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	なし	☒
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	なし	☐

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 159 517 353" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="517 159 676 203">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 159 1414 203">私たちの住まいと生活 第2版</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 203 676 248">I S B N</td> <td data-bbox="676 203 951 248">978-4-395-32202-2</td> <td data-bbox="951 203 1110 248">著者名</td> <td data-bbox="1110 203 1414 248">水村 容子 他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 248 676 293">出版社</td> <td data-bbox="676 248 951 293">彰国社</td> <td data-bbox="951 248 1110 293">出版年</td> <td data-bbox="1110 248 1414 293">2024</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 293 676 353">金額</td> <td data-bbox="676 293 951 353"></td> <td data-bbox="951 293 1110 353">備考</td> <td data-bbox="1110 293 1414 353"></td> </tr> </table>				教科書1	書名	私たちの住まいと生活 第2版			I S B N	978-4-395-32202-2	著者名	水村 容子 他	出版社	彰国社	出版年	2024	金額		備考		☒																																		
教科書1	書名	私たちの住まいと生活 第2版																																																						
	I S B N	978-4-395-32202-2	著者名	水村 容子 他																																																				
	出版社	彰国社	出版年	2024																																																				
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 405 517 600" rowspan="4">参考書1</td> <td data-bbox="517 405 676 450">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 405 1414 450">私たちの住居学 第2版 サステナブル社会の住まいと暮らし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 450 676 495">I S B N</td> <td data-bbox="676 450 951 495">978-4-274-22348-8</td> <td data-bbox="951 450 1110 495">著者名</td> <td data-bbox="1110 450 1414 495">中根 芳一</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 495 676 539">出版社</td> <td data-bbox="676 495 951 539">オーム社</td> <td data-bbox="951 495 1110 539">出版年</td> <td data-bbox="1110 495 1414 539">2019</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 539 676 600">金額</td> <td data-bbox="676 539 951 600"></td> <td data-bbox="951 539 1110 600">備考</td> <td data-bbox="1110 539 1414 600"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 600 517 846" rowspan="4">参考書2</td> <td data-bbox="517 600 676 645">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 600 1414 645">初めて学ぶ住居学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 645 676 689">I S B N</td> <td data-bbox="676 645 951 689">978-4-7615-2596-5</td> <td data-bbox="951 645 1110 689">著者名</td> <td data-bbox="1110 645 1414 689">〈建築のテキスト〉編集委員会編</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 689 676 734">出版社</td> <td data-bbox="676 689 951 734">学芸出版社</td> <td data-bbox="951 689 1110 734">出版年</td> <td data-bbox="1110 689 1414 734">2015</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 734 676 846">金額</td> <td data-bbox="676 734 951 846"></td> <td data-bbox="951 734 1110 846">備考</td> <td data-bbox="1110 734 1414 846"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 846 517 1048" rowspan="4">参考書3</td> <td data-bbox="517 846 676 891">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 846 1414 891">住まい方から住空間をデザインする 新訂第二版</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 891 676 936">I S B N</td> <td data-bbox="676 891 951 936">978-4-395-32107-0</td> <td data-bbox="951 891 1110 936">著者名</td> <td data-bbox="1110 891 1414 936">林 知子 他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 936 676 981">出版社</td> <td data-bbox="676 936 951 981">彰国社</td> <td data-bbox="951 936 1110 981">出版年</td> <td data-bbox="1110 936 1414 981">2018</td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 981 676 1048">金額</td> <td data-bbox="676 981 951 1048"></td> <td data-bbox="951 981 1110 1048">備考</td> <td data-bbox="1110 981 1414 1048"></td> </tr> </table>				参考書1	書名	私たちの住居学 第2版 サステナブル社会の住まいと暮らし			I S B N	978-4-274-22348-8	著者名	中根 芳一	出版社	オーム社	出版年	2019	金額		備考		参考書2	書名	初めて学ぶ住居学			I S B N	978-4-7615-2596-5	著者名	〈建築のテキスト〉編集委員会編	出版社	学芸出版社	出版年	2015	金額		備考		参考書3	書名	住まい方から住空間をデザインする 新訂第二版			I S B N	978-4-395-32107-0	著者名	林 知子 他	出版社	彰国社	出版年	2018	金額		備考		☒
参考書1	書名	私たちの住居学 第2版 サステナブル社会の住まいと暮らし																																																						
	I S B N	978-4-274-22348-8	著者名	中根 芳一																																																				
	出版社	オーム社	出版年	2019																																																				
	金額		備考																																																					
参考書2	書名	初めて学ぶ住居学																																																						
	I S B N	978-4-7615-2596-5	著者名	〈建築のテキスト〉編集委員会編																																																				
	出版社	学芸出版社	出版年	2015																																																				
	金額		備考																																																					
参考書3	書名	住まい方から住空間をデザインする 新訂第二版																																																						
	I S B N	978-4-395-32107-0	著者名	林 知子 他																																																				
	出版社	彰国社	出版年	2018																																																				
	金額		備考																																																					
34. Web テキスト (URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☒																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他(なし)		☒																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー：毎週水曜日11時～12時または電子メール(@naruto-u.ac.jp)で問い合わせること。			☒																																																			
	連携大学 学生向け	オフィスアワー：特に設けない。電子メール(@naruto-u.ac.jp)で問い合わせること。			☒																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: @naruto-u.ac.jp			☒																																																			
	連携大学 学生向け	Mail: @naruto-u.ac.jp			☒																																																			
40. 教員の実務経験について	該当せず				☐																																																			
41. バリアフリー対応	非対応				☐																																																			
42. その他／備考	なし				☐																																																			

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	前期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向・対面授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 保育学Ⅱ (英文名) Childcare study Ⅱ				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 松井 剛太 (ローマ字) MATSUI Gota				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	学部2,3,4年次生・教育学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部2年次生	
16. 曜日・時限	双方向:前期・金曜日(受講生と要相 談) 対面:前期(8月28日～30日)		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	保育学Ⅰ	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)家庭科、(2)保育 (1)home economics, (2)Childcare				
21. 授業概要	本授業は、最初に「家庭」領域の保育学の内容の中から、テーマを選択し、各テーマについて、理解を深めていく。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	①選択したテーマについて、情報を収集し、整理すること ②選択したテーマについて、自分なりの結論を導くこと				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	保育学の基本的な理論と実践を説明できる。				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	本授業では、必要に応じて、ワーク、グループ討議、体験等を行う。テーマごとに必ずレポートを提出する。 (1)オリエンテーション (2)調査方法について (3)先行研究の購読 (4)研究テーマの設定 (5)調査の設定 (6)調査の実施:保育施設にて (7)調査の実施:子育て支援施設にて (8)調査の実施:子ども食堂にて (9)発表の準備:データの整理 (10)発表の準備:データの解釈 (11)発表の準備:考察 (12)成果の発表:結果の報告 (13)成果の発表:議論 (14)成果の発表:再考 (15)まとめ 授業では、参加者の人数に応じて課題を変えるが、毎時間レポートを提出して議論をする。なお、この科目は基本的に対面授業を行います。状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 毎回指定したテーマに沿って議論します。事前のレポートのテーマもその都度指定するので、テキストの該当箇所から考察したことを記述するようにしてください。自学自習の時間の目安(毎回準備学習1時間＋事後学習1時間)	☒
28. 成績評価の方法と基準	レポートの提出状況(50%)と授業への参加態度(50%)によって総合的に評価する。 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。	☒

	合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。																																																							
29. 再試験の有無	再試験は行わない。				☒																																																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし				☒																																																			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	本授業では、受講生の積極的な参加を求める。参加意欲のない者は不可となる。				☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	必要な資料等は授業時に配布する。 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td><td>書名</td><td colspan="3">なし</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>				教科書1	書名	なし			I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒																																		
教科書1	書名	なし																																																						
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	必要な資料等は授業時に配布する。 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td><td>書名</td><td colspan="3">なし</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td><td>書名</td><td colspan="3">なし</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td><td>書名</td><td colspan="3">なし</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>				参考書1	書名	なし			I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名	なし			I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名	なし			I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒
参考書1	書名	なし																																																						
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名	なし																																																						
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名	なし																																																						
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	必要なWebテキスト等は授業時に配布する。				☒																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	☒																																																				
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	月曜日1時限目。または、電子メール(matsui.gota@kagawa-u.ac.jp)で問い合わせること			☒																																																			

	連携大学 学生向け	特に設けない。電子メール(matsui.gota@kagawa-u.ac.jp)で問い合わせること	☒
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	matsui.gota@kagawa-u.ac.jp	☒
	連携大学 学生向け	matsui.gota@kagawa-u.ac.jp	☒
40. 教員の実務経験について	該当せず		☒
41. バリアフリー対応	非対応		☒
42. その他／備考	なし		☒

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	前期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向型遠隔授業・対面授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 保育学(実習及び家庭看護を含む)				
	(英文名) Early Childhood Education and Care				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 磯部 香				
	(ローマ字) ISOBE Kaori				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	学部2年次生以上・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部2年次生以上	
16. 曜日・時限	対面授業(高知大学)・双方向型遠隔 授業(高知大学以外)は、木曜5限 実習等(第9回～第15回)は集中		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	子育てと社会	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	子育てと社会(42805)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	保育、子育て、親性準備性、子育ての社会化、家庭看護 Childcare, Parenting, Parental readiness, Socialization of Parenting, Family nursing				
21. 授業概要	本授業では、中学・高校の家庭科免許のために必要な理論と実践をふまえつつ、保育・子育て周辺の 領域である、家族、地域、政策、ジェンダーの側面から、日本を含めたアジアの保育・子育ての現状と課 題を学ぶ。また実際にフィールドワーク調査に行き、体感することでグローバルな視点から保育・子育て を理解する。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	家庭科の保育領域から、中学生・高校生に教える保育、及び、保育周辺領域を家族・ジェンダー・グロー バルな視点で理解する。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	・保育・子育てを取り巻く最近の課題について理解できる。 ・グローバルな視点を養い、保育・子育てを相対化できる力を身につけることができる。 ・保育施設に赴き調査を遂行する能力、その結果を共有し表現する能力を修得できる。				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第1回:オリエンテーション (授業の目標, テーマ, 概要, 評価, 注意事項, 学習指導要領における本授業の位置付け) 第2回:親性準備性とは? (「親性準備性」について理解し, その課題を明確にする) 第3回:性別役割分業意識とイクメン (性別役割分業意識, 及び, 子育て・家族の中の問題の所在がどこにあるかを考える) 第4回:子どもの貧困・ヤングケアラー (福祉学・社会学の視点から子育て・家族の中の問題の所在がどこにあるかを理解する) 第5回:少子化と子育ての社会化 (人口学, 社会学の視点を導入し, 少子化減少・子育て支援対策について理解する) 第6回:ジェンダー・性的多様性を考える① (教育現場のジェンダー平等・性的多様性の実現に向けての取り組みと課題を考える) 第7回:ジェンダー・性的多様性を考える② (「隠れたカリキュラム」の見直し、「ally」先生養成を検討するためのグループディスカッション・プレゼンを行う) 第8回:アジアの保育・子育て (中国の子育て事情・家族・子育て支援対策を理解する) 第9回:保育と多文化共生 (多文化共生社会の保育の最新動向と課題について理解する) 第10回:家庭看護 (家庭看護の基礎を修得する) 第11回:実習の事前準備 (実習に向けて留意すべき点, 園児・保育者の観察するべき点を整理し討論する) 第12回:保育実習① (子育て支援施設に赴き, 園児・保育者の言動を観察する) 第13回:保育実習② (子育て支援施設に赴き, 子育ての専門家に聞き取り調査を行う) 第14回:グループディスカッション (実習で得た知見を共有するため, グループディスカッションを行う) 第15回:プレゼンテーション (実習で得た気づき・学びを受講生の前でプレゼンテーションをする。本授業全体の総括)	☒
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	本講義は世界と地域で起きている保育に関する時事問題を取り上げるため、常に新聞等のメディアに目を通して参加してほしい。 【自学自習のためのアドバイス】 第2～6回 親準備性、子育て支援政策、ジェンダー、性的多様性等に関する論文等を読む。	☒

	第7～9回 グローカルな視点で保育や子育てを捉えてほしいため、webや新聞等による情報収集を行う。 第10回 実習に行く前に必要なことを話し合うための情報を収集する。 第11～14回 実習等で得た知見を整理し、グループでの活発なディスカッションの準備を行う。 第15回 ディスカッションで出た意見を整理し、グループでプレゼンテーションの準備を行う。																																																				
28. 成績評価の方法と基準	授業の参加態度(ディスカッション・発言:20%), プレゼンテーション(20%), 学期末レポート(60%) 注1: 指定された期日を過ぎて課題を提出した場合、採点の対象外となる場合があるので注意すること。	☒																																																			
29. 再試験の有無	再試験は行わない。	☒																																																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり ※超過の場合は、要相談 香川大学13名・鳴門教育大学13名・高知大学13名程度	☒																																																			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	保育実習の準備もあるため、欠席が予め分かっている場合は必ずメールで連絡をすること。	☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td><td>書名</td><td colspan="3"></td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>	教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒																																		
教科書1	書名																																																				
	I S B N			著者名																																																	
	出版社			出版年																																																	
	金額		備考																																																		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td><td>書名</td><td colspan="3">『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編』</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td>978-4304021541</td><td>著者名</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>開隆堂出版</td><td>出版年</td><td>2018年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td>157円</td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td><td>書名</td><td colspan="3">『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編』</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td>978-4877304195</td><td>著者名</td><td>文部科学省</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>教育図書</td><td>出版年</td><td>2019年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td>508円</td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td><td>書名</td><td colspan="3"></td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>	参考書1	書名	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編』			I S B N	978-4304021541	著者名	文部科学省	出版社	開隆堂出版	出版年	2018年	金額	157円	備考		参考書2	書名	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編』			I S B N	978-4877304195	著者名	文部科学省	出版社	教育図書	出版年	2019年	金額	508円	備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒
参考書1	書名		『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編』																																																		
	I S B N		978-4304021541	著者名	文部科学省																																																
	出版社		開隆堂出版	出版年	2018年																																																
	金額	157円	備考																																																		
参考書2	書名	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編』																																																			
	I S B N	978-4877304195	著者名	文部科学省																																																	
	出版社	教育図書	出版年	2019年																																																	
	金額	508円	備考																																																		
参考書3	書名																																																				
	I S B N		著者名																																																		
	出版社		出版年																																																		
	金額		備考																																																		
34. Webテキスト(URL・説明)	なし	☒																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目 なし	☒																																																		

37. 教員相互参観授業公開日程			☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	磯部のオフィスアワー: 毎週月火のお昼(12:10～13:00) まず、電子メール(kaori_isobe@kochi-u.ac.jp)でアポイントメントを取ること。	☒
	連携大学 学生向け	オフィスアワーは特に設けない。電子メール (kaori_isobe@kochi-u.ac.jp) で問い合わせること。	☒
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	磯部香: kaori_isobe@kochi-u.ac.jp	☒
	連携大学 学生向け	磯部香: kaori_isobe@kochi-u.ac.jp	☒
40. 教員の実務経験について	東アジアのケアや幼児教育、ジェンダー、多文化共生、異文化理解等に携わったことのある教員が、グローバルな視点で保育の方策を検討するための授業を行う。		☒
41. バリアフリー対応	個別相談の上、対応を協議します。		☒
42. その他／備考	なし		☒

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	前期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種別	オンデマンド遠隔授業・双方向型遠隔授業・対面授業	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 持続可能な生活づくり (英文名) Creating Sustainable Lifestyles				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 磯部 香, 坂本 有芳 (ローマ字) ISOBE Kaori, SAKAMOTO Yuka				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	学部2年次生以上・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部2年次生以上	
16. 曜日・時限	集中		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	生活、持続可能性、地域コミュニティ Lifestyles , Sustainability, Local communities				
21. 授業概要	オンラインオンデマンド(遠隔授業/双方向型遠隔授業)及び、対面型のハイフレックス型の集中講義とする。各界のゲストスピーカーを招いたレクチャーにより、私たちを取り巻く生活課題を複合的に理解する。さらにフィールドワーク調査によって課題をつかみ、四国に集う大学生同士で議論やプレゼンテーションを行い、問題解決に向けて共に「答え」を探索する。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	生活者の視点から四国の様々な事象をとらえて課題を設定し、持続可能な社会づくりに向けて解決する力を養う。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	・私たちの取り巻く家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化を複合的に理解できる。 ・四国の特徴や抱える特有の生活課題を日本そしてアジアといったグローバルな視点でとらえ相対化し、解決のための行動変容を具体的に提案する。				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回:オリエンテーション 持続可能な生活づくりとは何か?(担当:坂本、磯部) 第2回:大量消費社会の問題①:脱炭素社会に向けて(担当:坂本) 第3回:大量消費社会の問題②:持続可能な食と農林水産業(担当:坂本) 第4回:大量消費社会の問題③:廃棄物とリサイクル(担当:坂本) 第5回:消費行動の変容による持続可能な生活づくり(担当:坂本) 第6回:グローバルの視点で地域間格差を考える① 農村振興(担当:磯部) 第7回:グローバルの視点で地域間格差を考える② 高齢者政策(担当:磯部) 第8回:グローバルの視点で地域間格差を考える③ 外国人ケア労働者(担当:磯部) 第9回:フィールドワークとは何か? 調査方法・分析視角(担当:磯部) 第10回:フィールドワーク調査① 四国の生活文化とその可能性(担当:坂本、磯部) 第11回:フィールドワーク調査② 四国の生活文化とその可能性(担当:坂本、磯部) 第12回:フィールドワーク調査③ 四国の生活文化とその可能性(担当:坂本、磯部) 第13回:フィールドワーク調査④ 四国の少子高齢化と課題(担当:坂本、磯部) 第14回:グループ・ディスカッション(担当:坂本、磯部) 第15回:グループごとのプレゼンテーション(担当:坂本、磯部)	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	本講義は世界と地域の時事問題を取り上げるため、常に新聞等のメディアに目を通して参加してほしい。 【自学自習のためのアドバイス】 第1～5回 「食品ロス」「サステナブルファッション」「プラスチックごみ」「電子廃棄物」「製品安全」「エシカル消費」「ローカルSDGs」などをキーワードとして、Web、書、新聞などより収集した記事に目を通す。 第7～9回 グローバルな視点で四国の社会問題を捉えるため、webや新聞等による情報収集。 第10回 ゲストスピーカーの生活物や世界観について調べる。 第11～15回 フィールドワーク調査地におけるグループでの活発なディスカッション・プレゼンテーションの準備。	☒
28. 成績評価の方法と基準	学期末レポート(60%)、授業毎に課せられるミニレポート(20%)、ディスカッション・プレゼンテーション(20%)の成績を総合的に評価する。 注1:指定された期日を過ぎて課題を提出した場合、採点の対象外となる場合があるので注意すること。	☒
29. 再試験の有無	再試験は行わない。	☒
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名程度	☒
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるものの	フィールドワーク調査での宿泊やバスの手配などの準備もあるため、欠席が予め分かっている場合は担当教員2名を連名にして必ずメールで連絡をすること。	☒

32. 教科書(購入の必要のある図書)	特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。				☒	
	教科書1	書名				
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	持続可能な社会と生活（放送大学教材）		☒	
		I S B N	978-4595323966	著者名		関 正雄
		出版社	放送大学教育振興会	出版年		2023年
		金額	3,300円	備考		
	参考書2	書名	文部科学省検定済高等学校家庭科教科書 『家庭総合 自立 共生 創造』			
		I S B N	978-4487166497	著者名		牧野カツコ 他
		出版社	東京書籍	出版年		2022年
		金額		備考		
	参考書3	書名	「消費者白書」「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」			
		I S B N		著者名		消費者庁／環境省
		出版社		出版年		各年
		金額		備考		
	34. Web テキスト (URL・説明)	なし				☒
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	☒		
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	磯部のオフィスアワー：毎週月火のお昼(12:10～13:00) 坂本のオフィスアワー：毎週水のお昼(12:10～13:00) まず、電子メール(kaori_isobe@kochi-u.ac.jp/ysakamoto@naruto-u.ac.jp)でアポイントメント を取ること。			☒	
	連携大学 学生向け	オフィスアワーは特に設けない。電子メール (kaori_isobe@kochi-u. ac. jp/ ysakamoto@naruto-u. ac. jp) で問い合わせること。			☒	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	磯部香: kaori_isobe@kochi-u.ac.jp 坂本有芳: ysakamoto@naruto-u.ac.jp			☒	
	連携大学 学生向け	磯部香: kaori_isobe@kochi-u.ac.jp 坂本有芳: ysakamoto@naruto-u.ac.jp			☒	
40. 教員の実務経験について	国や地方公共団体等の地域活性化支援、地方公共団体へのICT導入や省庁の政策課題に応じた調査 研究実務の経験のある教員が、ICT活用を図りながら地域の活性化を進める方策を検討する考察力を 身につけるための授業を行う。				☒	

41. バリアフリー対応	個別相談の上、対応を協議します。	☒
42. その他／備考	なし	☒

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期前期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	対面授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 家庭科内容構成				
	(英文名) Home Economics Education Study and Research Review				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし				
	(英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 一色 玲子,未定				
	(ローマ字) ISSHIKI Reiko, -				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	木曜日3時限		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	選択
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)教科内容 (2)家政学 (3)家庭科授業構成力 (1)School Subject Content (2)Home Economics (3)Content Knowledge in Home Economics Education				
21. 授業概要	本授業では、教材開発の視点から教科専門(被服学、食物学、住居学、家族関係学、家庭経営学、児童学、消費経済、環境など)の内容を探究し、その成果をもとに教材研究を行う。これらの学修過程を通して、家政学系基礎学問と家庭科教育の双方向的関連付けを図る。家庭科教育では、「主体的・対話的で深い学び」を意識し、「生活の営みに係る見方・考え方」や「生活を工夫し創造する資質・能力」を育成する必要がある。そのため、これらを授業目標に据えて学習内容の分析を行う。その分析結果に基づいた学習指導案の作成や模擬授業を通して、学校現場で必要な授業実践力の習得を目指す。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	家庭科教員には、「生活の営みに係る見方・考え方」や「生活を工夫し創造する資質・能力」を育成するための教材開発及びカリキュラム開発をする実践的な力が求められる。そのため、教員を志す学生たちは、家庭科の基礎を成す家政学に関する専門的な知識・技能・態度をできる限り身に付ける必要がある。さらに、家庭科の各内容の関連性や小・中・高等学校の内容の系統性も理解する必要がある。領域毎で不足している学習内容の検討も通して、家庭科教材の内容を理解するとともに、教科専門の知識・技能を養うことも目指している。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 家庭科教育の学習内容を家政学系基礎学問と関連付けて説明することができる。 2. 家政学系基礎学問との関連を踏まえて、教材研究や教材開発を行うことができる。 3. 学習指導案を作成し、開発した教材を用いて模擬授業を行うことができる。				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)																					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回 ガイダンス、家庭科教育の内容と基盤となる家政学系基礎学問との関連 第2回 家庭科内容の基盤となる学問の内容探究①消費・環境 第3回 家庭科内容の基盤となる学問の内容探究②衣生活 第4回 家庭科内容の基盤となる学問の内容探究③食生活 第5回 家庭科内容の基盤となる学問の内容探究④住生活 第6回 各グループの課題についての教材研究と学習指導案作成① 第7回 消費・環境の基盤となる学問の内容探究 第8回 衣生活の基盤となる学問の内容探究 第9回 食生活の基盤となる学問の内容探究 第10回 住生活の基盤となる学問の内容探究 第11回 各グループの課題についての教材研究と学習指導案作成② 第12回 模擬授業①衣生活と消費・環境 第13回 模擬授業②食生活と消費・環境 第14回 模擬授業③住生活と消費・環境 第15回 模擬授業総括、まとめ																				
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 第1週～第2週 家庭科教育学の論文等を読み、レポートにまとめる。(6時間) 第3週～第9週 家政学系基礎学問の論文、専門書等を読み、レポートにまとめる。(24時間) 第10週～第15週 教材開発や指導案作成、指導案修正等行う。(18時間)																				
28. 成績評価の方法と基準	レポート40%、学習指導案30%、模擬授業30%																				
29. 再試験の有無	再試験は行わない。																				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし																				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	講義と演習で授業を進めていきます。この授業は全て対面形式で実施します。																				
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考	
教科書1	書名																				
	ISBN		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン 増補版 探究的で深い学びを暮らしの場からつくる			☐
		I S B N	2146640-02	著者名	荒井紀子他	
		出版社	教育図書	出版年	2002年	
		金額	2860円	備考		
	参考書1	書名	高等学校学習指導要領解説(家庭編)			
		I S B N	978-4877304195	著者名	I S B N	
		出版社	東京書籍	出版年	出版社	
		金額	508円	備考		
	参考書2	書名	中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)			
		I S B N	978-4-304-02154-1	著者名	I S B N	
		出版社	開隆堂	出版年	出版社	
		金額	157円	備考		
	参考書4	書名	小学校学習指導要領解説(家庭編)			
		I S B N	978-4491034669	著者名	文部科学省	
		出版社	東洋館出版社	出版年	2018年	
		金額	172円	備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		教職(中・高家庭免許状)	☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー: 毎週火曜5限目。または、電子メール (isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp) で問い合わせること。			☐	
	連携大学 学生向け	オフィスアワー: 特に設けない。電子メール (isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp) で問い合わせること。			☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp			☐	
	連携大学 学生向け	Mail: isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp			☐	
40. 教員の実務経験について	該当せず。				☐	
41. バリアフリー対応	必要に応じて対応可。				☐	
42. その他／備考	なし。				☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	前期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種別	オンデマンド・双方向・対面授業	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名)中等家庭科教育特論 (英文名)Special Lecture on Home Economics Education in Secondary Schools				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)なし (英文名)なし				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語)速水 多佳子 (ローマ字)HAYAMI Takako				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	対面授業は夏期集中講義期間。 双方向は月曜日(16:30～18:00) オンデマンドは曜日・時限は関係なし。		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 中等家庭科教育論 中等家庭科授業論	連携大学 学生向け なし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け なし 連携大学 学生向け なし	
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	(1)家庭科 (2)模擬授業 (3)ICT (1) Home Economics (2) Practice lesson (3)ICT				
21. 授業概要	各自が作成した学習指導案を基に、模擬授業の実践を中心に進める。受講者は教育役と生徒役を担当し、授業後は改善点を相互に指摘し合って学習指導案を練り直していく。				☐
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	家庭科に関する実践的指導力を培うことを目的とする。家庭科の教科内容理解に基づいた教材研究、模擬授業を行い、実践後に授業分析を重ねる中で、授業実践力や授業評価力、そして教員として必要なコミュニケーションスキルについても高めていくことを目指す。				☐
23. 授業の到達目標／学修課題	到達目標は、実践的・体験的な学習活動を取り入れた授業設計ができること、情報機器及びICT教材を活用した模擬授業実践ができること、授業を分析・評価ができる能力を身に付けることである。				☐

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回:家庭科教育の意義と課題 第2回:家庭科教員の資質・能力 第3回:家庭科における学習指導方法と工夫(1)家族・家庭生活 第4回:家庭科における学習指導方法と工夫(2)食生活 第5回:家庭科における学習指導方法と工夫(3)衣生活 第6回:家庭科における学習指導方法と工夫(4)住生活 第7回:家庭科における学習指導方法と工夫(5)消費生活と環境 第8回:授業設計と学習指導案の作成 第9回:情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価(1)家族・家庭生活 第10回:情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価(2)食生活 第11回:情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価(3)衣生活 第12回:情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価(4)住生活 第13回:情報機器及び教材を活用した模擬授業と授業評価(5)消費生活と環境 第14回:模擬授業の分析と学習指導案の検討 第15回:学習評価の方法	☐
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎時間の授業に対して、事前学習として2時間、事後学習として2時間以上の学習を行ってください。 【自学自習のためのアドバイス】 授業で扱う各領域に関連した内容についての教材研究をすること。 ・事前に模擬授業に向けて、練習を重ねること。 ・授業で扱う内容を参照し、事前に関連した範囲の中高の家庭科教科書を熟読しておくこと。 ・授業後に、模擬授業の振り返りを作成して次回授業で提出すること。	☐
28. 成績評価の方法と基準	レポート(20%)、学習指導案作成力(20%)、模擬授業実践力(20%)、授業評価力(20%)、授業への積極的参加度(20%)	☐
29. 再試験の有無	再試験は行わない。	☐
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし	☐
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	演習を多く取り入れた授業となります。積極的に参加してください。	☐

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				☐
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編			☐
		I S B N	978-4-304-02154-1	著者名	文部科学省	
		出版社	開隆堂	出版年	平成30年	
		金額	143円＋税	備考		
	参考書2	書名	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編			
		I S B N	978-4-87730-419-5	著者名	文部科学省	
		出版社	教育図書	出版年	平成31年	
		金額	462円＋税	備考		
	参考書3	書名				
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	34. Web テキスト (URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		なし	☐	
37. 教員相互参観授業公開日程						☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	月曜日 15:00-16:00				☐
	連携大学 学生向け	オフィスアワー: 特に設けない。				☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: thayami@naruto-u.ac.jp				☐
	連携大学 学生向け	Mail: thayami@naruto-u.ac.jp				☐
40. 教員の実務経験について	高等学校家庭科教諭, 指導主事経験のある教員が、学校現場で培った経験を基に、授業の基本や教員としての心構え等について指導する。					☐
41. バリアフリー対応	非対応					☐
42. その他／備考	なし					☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	学校教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向・対面授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 中等家庭科実践研究				
	(英文名) Lesson Study in Home Economics Education for Secondary Education				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし				
	(英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 一色 玲子				
	(ローマ字) ISSHIKI Reiko				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	学部3年次生・全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	学部3年次生	
16. 曜日・時限	月曜日5限目、集中		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	家庭科教育論、家庭科 教育法、家庭科授業研 究Ⅰ	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	家庭科授業研究Ⅱ (1104530C-1)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	(1)授業研究 (2)教育評価 (3)家庭科教育 (1)Lesson Stud (2)Educational Evaluation (3)Home Economics Education				
21. 授業概要	本授業では、前半は教育評価の理論や家庭科の事例を中心に講義を行う。さらに、評価を核とした授業研究を協働で実施し、模擬授業や学校現場での実践(授業者は協力校の教員)をふまえて授業の効果や改善点について議論する。これら授業研究のプロセスを通して、授業作りの実践的能力を身に付けることを目的とする。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	本授業では、教育評価と授業研究の方法を中心に学習し、授業実践力を育成することを目指す。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 家庭科授業の評価方法について、事例をもとに説明することができる。 2. 授業研究の意義について、教師の専門的力量形成と関連付けて説明することができる。 3. 授業研究を通して、中学・高校家庭科の授業作りの実践的な能力を備えることができる。				☑
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回 ガイダンス—授業の進め方、模擬授業等の方法について 第2回 家庭科授業の評価方法①教育評価の基礎的知識 第3回 家庭科授業の評価方法②教育評価の理論 第4回 家庭科授業の評価方法③教育評価の実践 第5回 授業研究の方法、国内外の家庭科授業研究の様相 第6回 授業映像をもとにした授業検討 第7回 家庭科の授業研究①評価を核とした授業の構想 第8回 家庭科の授業研究②学習指導案の作成 第9回 家庭科の授業研究③教材の作成 第10回 家庭科の授業研究④模擬授業の実施 第11回 家庭科の授業研究⑤模擬授業についての議論 第12回 家庭科の授業研究⑥学習指導案の再検討 第13回 家庭科の授業研究⑦再検討した授業の協力校での実践および観察 第14回 家庭科の授業研究⑧学校現場での授業実践についての議論 第15回 まとめ—さらなる授業改善に向けて																				
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 第2週～第5週 教育評価に関する論文等を読み、レポートにまとめる。(16時間) 第5週～第9週 授業研究に関する論文等、専門書等を読み、レポートにまとめる。(16時間) 第10週～第14週 教材開発や指導案作成、指導案修正等行う。(16時間)																				
28. 成績評価の方法と基準	授業への参加度(30%)、学習指導案(30%)、レポート(40%)																				
29. 再試験の有無	再試験は行わない。																				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし																				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	講義と演習形式で授業を進めていきます。																				
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考	
教科書1	書名																				
	I S B N		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	高等学校学習指導要領解説(家庭編)			☐
		I S B N	978-4877304195	著者名	文部科学省	
		出版社	東京書籍	出版年	2019年	
		金額	508円	備考		
	参考書2	書名	中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)			
		I S B N	978-4-304-02154-1		文部科学省	
		出版社	開隆堂		2018年	
		金額	157円	備考		
	参考書3	書名	教育評価			
		I S B N	9784000280501	著者名	田中耕治	
		出版社	岩波書店	出版年	2008年	
		金額		備考		
34. Web テキスト (URL・説明)	四国5国立大学による連携教職課程ホームページ https://shikoku-5university-network.or.jp/business/02/renkeikyou.html				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		教職(中・高家庭免許状)	☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー: 毎週火曜5限目。または、電子メール (isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp) で問い合わせること。			☐	
	連携大学 学生向け	オフィスアワー: 特に設けない。電子メール (isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp) で問い合わせること。			☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Mail: isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp			☐	
	連携大学 学生向け	Mail: isshiki,reiko[at]kagawa-u.ac.jp			☐	
40. 教員の実務経験について	該当せず。				☐	
41. バリアフリー対応	必要に応じて対応可。				☐	
42. その他／備考	なし。				☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025年度		2. 開講学期	1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育学部		4. 授業形態／授業種 別	双方向型遠隔	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	四国5大学による連携教職課程科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 中等家庭科指導法 I (英文名) Teaching Method for Secondary Homemaking Education I				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 小島郷子 (ローマ字) KOJIMA KYOKO				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	2年生以上		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	2年生以上	
16. 曜日・時限	火曜日・5限		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	中学校家庭科授業、知識と技能、実践的指導力、学習指導案、ICTの有効活用				
21. 授業概要	学習指導要領の内容を理解し、具体的な授業場면을想定した学習内容・学習方法・評価について理解 するとともに、中学生の実態を踏まえた授業設計と学習指導案の作成を行い、模擬授業と振り返りを通 じて授業改善を行う。 家庭科教育におけるICTの有効的な活用方法について理解する。				☐
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	中学校学習指導要領技術・家庭 家庭分野の目標や内容を理解する。 中学校における技術・家庭科の家庭分野を指導するために必要な知識と技能を習得するとともに、実 践的指導力を身につける。 学校教育の制度や簡単な歴史、中学校技術・家庭科家庭分野の学習内容や学習方法、評価方法につ いて学習する。 教材研究の方法や授業づくりの方法についても学習するとともに、学習指導案の作成を行う。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。				☐

23. 授業の到達目標／学修課題	中学校にける技術・家庭科の家庭分野を指導するために必要な知識と技能を習得するとともに、実践的指導力を身につける。 学校教育の制度や簡単な歴史、中学校技術・家庭科家庭分野の学習内容や学習方法、評価方法について理解する。 教材研究の方法や授業づくりの方法についても学習するとともに、学習指導案を作成することができる。	☐
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回 オリエンテーション 本科目の目的と到達目標、授業計画等を概説し受講生自らの課題を認識する 中学生の生活の現状と家庭科の課題 第2回 家庭科の歴史的理解と学習指導要領の目標・内容 第3回 家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解する ー家族・家庭生活・保育ー 第4回 家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解する ー食生活ー 第5回 家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解する ー衣生活ー 第6回 家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解する ー住生活ー 第7回 家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解する ー消費・環境・家庭科とSDGsー 第8回 家庭科の学習評価の方法について理解する 第9回 教育の情報化と家庭科におけるICTの有効的な活用について ー電子黒板・デジタル教科書・タブレット端末の活用方法ー 第10回 家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用する 第11回 家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材開発を行う 第12回 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成 第13回 模擬授業の実施とその振り返りを通した授業改善の視点を身につける ー家族・家庭生活・保育ー 第14回 模擬授業の実施とその振り返りを通した授業改善の視点を身につける ー食生活・衣生活・住生活ー 第15回 模擬授業の実施とその振り返りを通した授業改善の視点を身につける ー消費・環境ー	☐
27. 授業時間外学習にかかわる情報	【自学自習のためのアドバイス】 授業内容の復習、授業づくり、教材研究	☐
28. 成績評価の方法と基準	学習指導案の作成(30%)、授業中の課題(20%)、模擬授業と授業改善(50%)	☐

29. 再試験の有無	無				☐																																																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし 香川大学_名・徳島大学_名・鳴門教育大学_名・高知大学_名・愛媛大学_名 ※制限ありの場合、10名以上で設定				☐																																																			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	授業毎に課される課題は受講期間(開講時に通知する)内に提出すること。				☐																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">平成29年告示中学校学習指導要領解説 技術・家庭編</td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>文部科学省</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	平成29年告示中学校学習指導要領解説 技術・家庭編			I S B N		著者名	文部科学省	出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名	平成29年告示中学校学習指導要領解説 技術・家庭編																																																						
	I S B N		著者名	文部科学省																																																				
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">中学校 技術・家庭 家庭分野教科書</td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東京書籍・開隆堂</td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】</td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>国立教育政策研究所教育課程研究センター</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	中学校 技術・家庭 家庭分野教科書			I S B N		著者名		出版社	東京書籍・開隆堂	出版年		金額		備考		参考書2	書名	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】			I S B N		著者名	国立教育政策研究所教育課程研究センター	出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名	中学校 技術・家庭 家庭分野教科書																																																						
	I S B N		著者名																																																					
	出版社	東京書籍・開隆堂	出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】																																																						
	I S B N		著者名	国立教育政策研究所教育課程研究センター																																																				
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	なし				☐																																																			
35. パソコン必要度	自学自習で必要 <table border="1"> <tr> <td>36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目</td> <td>なし</td> </tr> </table>	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし			☐																																																		
36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし																																																							
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	オフィスアワー 月曜2限(予約をしてください)			☐																																																			
	連携大学 学生向け	メールで対応します			☐																																																			

39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	kkojima@kochi-u.ac.jp	☐
	連携大学 学生向け	kkojima@kochi-u.ac.jp	
40. 教員の実務経験について	該当せず		☐
41. バリアフリー対応	非対応		☐
42. その他／備考	なし		☐